

天草探見

林芙美子と「天草灘」

写真は、天草郡苓北町富岡の岡野屋旅館にある、林芙美子の文学碑である。

碑には、「旅に寝て のびのびと見る 枕かな」

という、林芙美子の句と、天草を訪ねた時の模様を書いた、「天草灘」の一文が刻まれている。林芙美子といえば、「放浪記」が有名だ。

「放浪記」は、ボクも読み始めたが、最後まで読み終えてはいない。

また、森光子が亡くなる寸前まで演じた舞台でも有名だ。

ボクは残念ながら、この舞台を観たことがない。

さて、「天草灘」

芙美子は昭和26年に57歳で亡くなっている。

この「天草灘」は短編なので、林芙美子全集にも載っていないようだ。



この「天草灘」を収録した雑誌がこれだ。

「別冊 文芸春秋」第16号 文芸春秋新社 昭和25年5月23日発行

「文芸」10月号 河出書房 昭和27年10月1日発行

「天草の文学 熊本県国語研究会 武藤光磨編著 昭和30年10月11日発行

この短編小説は、長崎県の茂木から小さな気船に乗り、富岡に上陸するまでの船内での様子。長崎の宿で就寝中に盗難に逢ったこと。

富岡に上陸し、宿屋での様子。

など、放浪の作家にふさわしく、淡々としかも戦前の天草を知らない描かれている。

作文を練習するには、名文を書き写すことがいい。

という、ことを聞いていたので、この「天草灘」を書き写した（もちろんパソコンで）。

勉強のついでに、機会があったら、多くの人に読んでもらいたいということもあったからだ。

戦前の文章なので、仮名文字が旧字体ということもあり、苦労したが、何とか書き（写し）終えた。

短編なのでA5版で9枚だ。

でも、ボクが読んだ小説のなかでも、ベストテンに入っている。